

編集後記：48期目の平成13年度「天気」編集委員会のメンバーが揃って早1か月。編集委員会のスタートは各委員の受け持ち分担から始まる。主な担当項目は「事務局」、「解説」、「カラーページ」、「気候情報」、「研究会報告」、「学位論文」、「最近の研究から」、「シンポジウム」、「講演企画」、「教育と普及」、「気象談話室」、「関連学会行事予定表」、「情報の広場」、「情報ファイル」、「本だな」、「会員の広場」、「質疑応答」、「海外だより」、「支部だより」、「新刊図書」、「新企画開発」、「会計」などである。また、随時、編集委員会に送付される「論文」、「短報」なども各個人で受け持ち、新誌面の目玉として最大限に生かそうと、余暇を利用して無報酬の兼業に奮闘している。これらの種々多様な分担項目について各人の担当を決める際、ふと「一人前の編集委員」の条件について考えさせられた。

一人前の編集委員とは担当業務を迅速・的確に進めていける人、与えられた担当論文などを責任を持って処理していける人、荷の重い仕事にも愚痴をもらさず自己犠牲の精神でこなせていける人、他の編集委員の痛みがわかる人、周囲に迷惑をかけずに協力して作業を進めていける人、常に広い視野を持って他の学会、分野にもアンテナを張り、運営していける人、将来の気象界の潮流を読む先見性がある人、そんな人が一人前の編集委員の条件として脳裏に浮かぶ。

以前、新聞で目にした話だが、長野県大鹿村で技術関連の仕事をしていた若い青年は「一人前とは何か」と問いかけられ、「重いものと軽いものがあつたら率先して重いものを持つこと、そういう人間になること、それが一人前かな」と答えたそう。組織の一個人として技術を磨き、与えられた仕事をやり抜くということも一人前の条件だが、それだけではない。仕事の際、

重いものと軽いものがあつたら、普通は軽いものを持つたがる。でも、あえて重いものを持つ。そういう努力をする。それが一人前の条件ではないかというのである。平凡なことだが、含蓄のある答えである。

最後に、お詫びです。ちょうど3年前の「天気」本欄で編集後記当番を担当しました。「仕事の忙しさに紛れて、学会の業務を忘れていました。この言い訳は漢字の成り立ちから考えると、原因＝結果となり意味をなさない。ビジーがなければビジネスは存在しない。ビジネスマンは忙しいのが普通で、忙しいは言い訳にならない」という内容の逸脱した拙文でした。話のタネが思いつかず、どうせ、誰も読まない編集後記、また、読んでいただいても所詮つまらない編集後記、時間のむだでお荷物とも考えられる編集後記、それならばいっそ脱線した編集後記をと横道にそれました。ところが、その後、多くの方からお便りなどをいただき、改めて「天気」の読者層の広さを思い知らされました。お便りの内容は「今後も面白くしてネ」という励ましの意見が大半でした。また、ご多忙中のある先生は、「天気」は、毎月、まず最初にこの編集後記欄から読むことにしていると伺いし、驚きました。しかし、誠に申し訳ありません。いただいたお便りに対して、小生、今だ礼状を書いておりません。理由は多忙でなく、小生の怠慢によりお返事をするタイミングを失ってしまったためです。今回の編集後記当番でさえ、日頃やさしい担当書記おぼさんの原稿催促のカミナリにドキッとして、ようやく書き始める次第です。所詮、凡人はタイムリミットが近づき、尻に火がつかねば、動きません。この世の中、お互い、忙しいのは宿命的なものようです。何卒、ご容赦を。（木下 仁）